

学長式辞

国際教養大学 学長

モンテ・カセム

ご来賓の皆様、ご父母・ご家族の皆様、そして国際教養大学の教職員の皆様、
本日は、国際教養大学にお越しいただき、308名の学生の入学をともにお祝いくださいますこと
に、心より感謝申し上げます。また、海外の協定校から104名の留学生を迎えておりますことをご
報告いたします。彼らの存在は、本学の学修居住一体型キャンパスに独特の国際色を添えてくれ
ています。

本日は、秋田県の鈴木健太知事、秋田県議会の工藤嘉範議長をはじめ、本学を支えてくださる多
くの方々にご臨席いただいております。大変お忙しい中、本学に足をお運びくださいましたことに
深く御礼申し上げます。

ご父母・ご家族の皆様、そしてこれまで新入生を導いてこられた仲間や恩師の皆様、この記念すべ
き日へと若き学生たちを送り出してくださったことに感謝いたします。私ども教職員一同、入学する
学生たちが在学中にグローバルリーダーとしての資質を磨くためのあらゆる機会を提供すること
をお約束いたします。

それでは、新入生の皆さんに少しお話しさせていただくことをお許してください。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは今、正式に国際教養大学の学びの共同
体の一員となりました。これからの数年間、将来のグローバルリーダーを目指してAIUで学ぶ際の
指針となることを願い、いくつかの考えを述べさせていただきます。

不安定で先行き不透明な世界情勢を背景として、中東、ウクライナ、そしてその他の地域で現在も
続いている複数の越境武力紛争の渦中にある、悲しみに暮れるご家族や友人の方々に思いを寄
せましょう。すべての当事者の指導者たちに理性が戻り、さらなる事態の激化が未然に防がれ、一
日も早く平和が回復されることを祈ります。生命はまことにかげがえのないものです。あらゆる手段
を尽くして生命を守ることは、時代を問わずに、リーダーに求められる責務の一つです。紛争の時
代におけるリーダーに不可欠な資質とは何でしょうか。私が深く敬愛する二人の人物、著名な外交
官である明石康氏と、日本武道の達人である山田専太氏の生涯と業績を通じて、このことをお伝え
したいと思います。

明石康氏は元国連事務次長であり、日本政府の数多くの平和構築活動に携わってこられました。
カンボジア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、そしてスリランカにおいて紛争当事者を対話の場に導き、
武力紛争の終結に尽力されました。また、核軍縮交渉にも精力的に取り組まれました。私は、明石
氏と国際世界平和ミュージアムが大学と連携して多くのセカンドトラック外交を実施した際に、ともに
働く機会に恵まれました。明石氏は軍縮を目指し、イスラエルの軍幹部とエジプトの外交官、そして

南北朝鮮の代表者を同じテーブルに着かせることに成功しました。これらの対話はチャタム・ハウス・ルールに基づいて行われ、参加者は議論の内容を平和の再構築に活用できるものの、誰が何を発言したかは公表しないことを誓約したのです。明石氏は、容易に戦争の火薬庫となり得る北東アジアを平和のモデル地域にすることに情熱を傾け、時に緊張が極度に高まる当事者間を粘り強く往復されました。ボスニア・ヘルツェゴビナにおける明石氏の部下であったマイケル・ローズ将軍は、明石氏を「小柄ながらも恐れを知らない人物であり、最後の最後まで紛争地バルカンの軍閥や政治指導者との対話を継続した」と評しています。スリランカにおいても私が間近で観察した明石氏の手法は、紛争当事者の頭に冷静さを取り戻させ、平和がもたらす恩恵の種を蒔くことでした。これには忍耐が必要でした。残念ながら、ボスニアでの明石氏の努力は阻まれ、スレブレニツァの虐殺という結末を迎えました。この事件の異なる側面は、元米国国務長官マデレーン・オルブライト、マイケル・ローズ将軍の回顧録の中に、そして最後に、ためらいながら書かれた明石氏自身の回顧録の中に見ることができます。

秋田出身で読書家でもある明石氏は、優れたユーモアのセンスの持ち主でもあります。明石氏は彼の貴重な蔵書の一部を AIU に寄贈してくださいました。私たちはそれらを整理し、図書館に「明石アーカイブ」を設置する計画を進めています。そこでは、平和の構築という困難な現実に向き合うかを学ぶことができるでしょう。また、明石氏は AIU のトップ諮問会議のメンバーでもあります。皆さんの在学中に直接お会いする機会があることを願っています。

残念ながら、皆さんは山田専太氏にお会いすることはできません。柔道と合気道の達人であった山田氏は 2010 年に逝去されました。長年にわたり、ケンブリッジを拠点にイギリスをはじめ多くの国々でこれらの日本武道を教えておられました。私が AIU に赴任する前に在籍していた日本の大学で、皆さんと同じ若い学生たちを指導しておられた際にお会いしました。山田氏は私の母国スリランカにも合気道の道場を持っておられました。ある夕食の席で私が「柔道がオリンピック競技になって世界中に広がったことを喜んでおられるのではないですか」と申し上げたところ、山田氏の返答は意外なものでした。「むしろその逆です」と山田氏は言いました。「柔道はオリンピック競技になって以来、その精神を失ったと私は考えています。」「それはどういうことでしょうか」と尋ねると、「オリンピック競技としては、勝つことがすべてです。しかし日本の柔道の精神においては、自分が勝つのではない。相手が勝たせてくれるのです。だからこそ、いわゆる勝者は最後に深くお辞儀をして、相手の寛容さに敬意を表すのです」と答えられました。

さらに山田氏は、あの有名な 1984 年ロサンゼルスオリンピック決勝戦についてこう語りました。日本柔道の伝説的存在、山下泰裕選手がエジプトのモハメド・ラシュワン選手と対戦した試合です。「エジプトの選手は試合には負けましたが、山下選手の負傷した右足を攻撃しなかったことで、すべての人の心を掴みました。それこそが柔道家の真の精神です。しかし金メダル獲得の歓喜の中で、山下選手はカメラの前で両手を挙げて喜びを表しました。それが私には気になるのです。なぜなら、それは謙虚さの欠如を示すからです。謙虚さとは、きわめて重要な美德です。あの日の山下選手のパフォーマンスは卓越した技の勝利を象徴しているかもしれませんが。しかし達人の『道』、すなわち柔道や合気道の『道』とは、卓越した技と慈悲の心を融合させることです。後者は、あの決勝戦

におけるエジプトの選手の姿勢、すなわち謙虚で、相手を思いやる姿に最も顕著に表れていました。」山田氏もまた、こうした資質を備えた方でした。彼は伝統武道の達人であるだけではありませんでした。その情熱は恵まれない人々を助けることに注がれ、社会的弱者のために数多くの自助プロジェクトを組織されました。67歳で故郷の福岡で静かに亡くなられた際には、あらゆる立場の人々から追悼されました。しかし、国内外からの賞賛にもかかわらず、山田氏は最後の日まで謙虚な方であり、その道に献身し、卓越した技に恵まれ、そしてまことに慈悲深い心の持ち主でした。新入生の皆さん、どのような職業の道を選ぶにせよ、ぜひ機会があれば伝統芸術に親しんでください。AIUには、それを体験できる多くの部活動やサークルがあります。中田教授が一学期のうちに、本学の留学生を含む若い学生たちに居合道の精神を伝え、日本刀を通じた身体的・精神的・霊的な態度を一変させる様子に、私はいつも感銘を受けています。AIUでは、教室での学問を超えたこうした数多くの機会をぜひ活用してください。

とはいえ、学業を軽視してほしくはありません。本学のグローバル・スタディーズ(GS)、グローバル・ビジネス(GB)、グローバル・コネクティビティ(GC)の学際的プログラムは、皆さんの学問的能力を試すものとなるでしょう。これらの知的刺激を活かして、社会が直面する課題に対する創造的な解決策を設計してください。AIUでは、秋田にとって重要でありグローバルにも関連する8つの課題領域を特定しており、そのすべてが創造的な取り組みを必要としています。これらは、文部科学省からAIUが受けた2つの大型の長期および中期の助成金であるCOI-NEXTとJ-PEAKSによって加速されます。新たにL棟にできたL-Labでは、J-PEAKSのもと、ラピッド・プロトタイピング・メーカースペースが開設されました。そこで皆さんは、創造的なアイデアを形ある成果物へと変えることができます。

これら2つの文部科学省の助成金は、AIUの研究力を強化するものです。助成金のもとでの活動には、まず木材の価値を超えた森林資源に関する研究があります。モビリティに関する研究は、輸送・物流を超えてその概念を再定義するものです。ライフスタイルの調整を通じて地域社会に前向きな意識を醸成し、健康長寿を促進することが、3つ目の研究領域です。さらに、秋田の農業・食料システムにおける気候リスクとレジリエンスに関する研究プログラムの立ち上げも予定しています。独自のデータサイエンス・DXプラットフォームも展開される予定であり、上述の4つの研究領域の分析的なエビデンスベースとなります。これらの研究領域やこれから数年の間に展開されるその他の研究に、ぜひ積極的に参加してください。それにより皆さんは、深い思想と果敢な行動を結びつける本学の教育システムであるAILA(応用国際教養教育)の精神に自信を持つようになるでしょう。確かな学問に基づいて学んだことを実践し、研究への参加を通じて夢を実現することで、皆さんの中にレジリエントで起業家精神に富んだ心が育まれるでしょう。

AIUを、教室での学びと教室の外にある社会参画の刺激的な機会を結びつけるシステムとして捉えてください。AIUの多くの学生クラブや団体、学修居住一体型キャンパスとテーマ別ハウス、コンフォートゾーンを超えた没入体験による能力の涵養、年中無休24時間開館の素晴らしい図書館、そして秋田の温かいコミュニティとの交流の機会など、これらすべてがAIUの教育の質を高めるラーニング・コモンズの一部です。ぜひこれらの機会を存分に活用し、皆さんにふさわしいリーダーと

なってください。

皆さんが忙しくも幸せで意義のあるキャンパスライフを送られることを願っています。トーマス・オズバート・モーダントが 1750 年に残した不朽の言葉にあるように、「輝かしく濃密な一時間は、名も無き一生にも値する」のです。私たちのキャンパスは、単なる物理的な地理空間ではありません。それは知的空間でもあり、AI・IoT がもたらす新たなサイバースペースへと広がっています。ここは、皆さんが生涯にわたる友情を育み、戻ってくる卒業生と交流し、秋田の地域コミュニティと関わり、そして皆さんのために設計された海外留学プログラムからインスピレーションを得る場です。私たち教職員一同、AIU での皆さんのリーダーシップの旅路のすべてのステップに寄り添うことをお約束します。改めまして、入学おめでとうございます。ご清聴ありがとうございました。

2026 年 4 月 8 日

President's Message

Akita International University
President
Monte Cassim

Honored Guests, Parents and Families, Colleagues from AIU,

Thank you so much for taking time to be with us here at Akita International University, celebrating the matriculation of 308 scholars. Among them, I also wish to welcome 104 scholars, who have come from AIU's overseas partner universities, giving our largely residential campus a unique international flavor.

We are honored today by the presence of Governor Kenta Suzuki from Akita Prefectural Government, Speaker Yoshinori Kudo from the Akita Prefectural Assembly, and other important supporters of AIU. We are very happy to have you with us here today, despite your incredibly busy schedules.

Parents and families, peers and mentors, thank you for guiding these young scholars towards this memorable day. My colleagues and I assure you that we will provide our matriculating scholars every opportunity to prepare them for taking on the mantle of global leadership in the coming years during the time they will be with us.

Now, kindly permit me to say a few words to the scholars.

Dear scholars,

Congratulations! You have now been inducted formally into AIU's community of scholars. Please permit me to share some thoughts which I hope will shape your journey as future global leaders here at AIU over the next several years.

Against the background of a volatile and uncertain world, let us all pay our respects to grieving families and friends caught in the crossfire of several transborder armed conflicts currently ongoing in the Middle East, Ukraine and elsewhere. Let us pray that sanity will prevail among the leaders on all sides, further escalation is pre-empted, and peace is restored at the very earliest. Life is indeed most precious. Protecting it in every way possible is one of the timeless responsibilities of leadership. What indeed are the essential qualities of a leader in times of conflict? Let me try to communicate this to you through the lives and work of two very different people, whom I respect a great deal, Yasushi Akashi, a renowned diplomat, and Senta Yamada, a master of Japanese martial arts.

Yasushi Akashi is a former Under-Secretary-General of the United Nations and has worked on many peace initiatives for the Government of Japan. He worked towards bringing warring parties in Cambodia, in Bosnia-Herzegovina, and in Sri Lanka to talk with each other and bring an end to armed conflict. He has also worked tirelessly in nuclear disarmament talks. I was fortunate to have worked with him and the Kyoto Museum of World Peace when he organized many second track initiatives with universities. Akashi was able to bring Israeli military generals and Egyptian diplomats, as well as representatives of the two Koreas, to the same table. These discussions were carried out under Chatham House Rules, where the parties at the discussions could use the content of the discussions to further the cause of re-establishing peace but pledged not to quote who said what at these talks. He was passionate about making Northeast Asia, which could very easily become a powder keg of war, into a model zone of peace, tirelessly shuttling between the parties among whom tensions would sometimes rise high. His subordinate in Bosnia-Herzegovina, General Sir Michael Rose, describes Akashi as a diminutive but fearless man who until the very last maintained dialog with the warring war lords and political leaders in the Balkans. Akashi's style, which I also observed closely in Sri Lanka, was to plant the seeds of the benefits of peace in the hot heads of the warring parties. This required patience. Unfortunately, his efforts were thwarted in Bosnia and what followed was the massacre of Srebrenica. You can see different sides of this incident in the biographies of former US Secretary of State Madeleine Albright, General Michael Rose and that of Akashi himself, written last and with reluctance.

A native of Akita, and an avid reader, Akashi also has a great sense of humor. He has gifted some of his precious books to AIU. We are planning to curate those to establish Akashi Archives in our library. You will find how to grapple with the ground truths of establishing peace. He is also a member of AIU's Top Advisory Board. I do hope you have the opportunity to meet him in person while you are here with us.

Unfortunately, you will not be able to meet Senta Yamada, a Judo and Aikido master who passed away in 2010. For many years he taught these Japanese martial arts in the U.K., based in Cambridge, and in many other countries. I met him when he was training young scholars like yourselves at a Japanese university I was in before I came to AIU. He also had an Aikido training facility, a dojo, in my home country, Sri Lanka. In a conversation over dinner I said, "You must be happy that Judo is now an Olympic Sport, spreading to all corners of the world." His response surprised me. "On the contrary," he said, "I believe Judo has lost its spirit since becoming an Olympic sport." "How so?" I asked. "As an Olympic sport," he said, "Winning is everything. But in the spirit of Japanese Judo, one does not win. One's opponent lets you win. That is why the so-called winner bows deeply

at the end, paying respect to the opponent's graciousness.”

He went on to tell me about his thoughts on the famous 1984 Summer Olympics final, where the Japanese judo legend, Yasuhiro Yamashita, met with Mohamed Rashwan from Egypt. “The Egyptian lost the bout but won the hearts of all because he did not attack Yamashita on his injured right leg. That is the true spirit of a Judo Master, but in the ecstasy of winning a gold medal, Yamashita raised his hands up in joy before the cameras. That bothers me because it represents a lack of humility, a highly valued virtue. Yamashita's performance that day might represent the triumph of supreme skill, but the “Way of the Master,” *michi*, or the *-do* of Judo and Aikido, is to blend supreme skill with a compassionate heart. The latter was most evident in the Egyptian's conduct at that final match, humble and caring of the other.” Yamada sensei too had these qualities. He was more than a master of the traditional martial arts. His passion was to help those less fortunate and organized many self-help projects for the disadvantaged. When he passed away, quietly in his home town, Fukuoka, at the age of 67, he was honored by many from all walks of life. Yet, despite this and recognition at home and abroad, Yamada sensei remained to his last day, a humble man, dedicated to his art, blessed with supreme skill and, indeed, a most compassionate heart.

My dear young scholars, immerse yourself in the traditional arts whenever possible, irrespective of the professional pathways you choose. AIU has many clubs and circles where you can experience this. I am always impressed with how Professor Nakata can, in just one semester, communicate the spirit of *Iaido*, to our young scholars, including AIU's overseas exchange students, transforming their physical, mental and spiritual engagement with the traditional Japanese sword. Please take advantage of the many such opportunities that go beyond scholarship in the classroom at AIU.

That said, I do not wish you to take your studies lightly. Our transdisciplinary programs in Global Studies (GS), Global Business (GB) and Global Connectivity (GC) will put your scholarship to the test. Use these intellectual stimuli for designing creative solutions to issues faced by society. Here at AIU, we have identified eight issue domains that are important for Akita and relevant globally, all requiring creative engagement. These will be accelerated by two large long-term and medium-term grants AIU has received from MEXT, the COI-NEXT grant and the J-PEAKS grant. The new L-Lab is intended to foster creativity and, under the latter grant, has created a rapid prototyping maker space in the L-Building, where you can transform your creative ideas into physical artifacts.

The two prestigious MEXT grants will strengthen AIU's research capacity. The activities under these grants include forest resource perspectives that go beyond the value of timber. Research on mobility, redefining it beyond transport and logistics, is another area of design engagement. The

creation of a positive outlook in communities to enhance healthy longevity through lifestyle modulation, is a third area. We also plan to launch a research program on climate risks and resilience, looking at agriculture and food systems in Akita. A unique data science and DX platform will be deployed in the course of this year. This will become the analytical evidence-base for the aforesaid four research areas. Please engage actively in these research areas, and others that will be forthcoming over the next few years. It will give you confidence in the spirit of AILA, our Applied International Liberal Arts learning system which marries profound thought with decisive action. By acting on what you learn through sound scholarship and realizing your dreams through research engagement, you will build within you a resilient, entrepreneurial spirit.

Please see AIU as a system of marrying learning in the classroom to inspiring opportunities for societal engagement outside it. AIU's many student clubs and societies, our residential campus and its themed houses, the nurturing of capabilities by immersion outside your comfort zone, our stunning library open 24 hours every day of the year, and opportunities for engagement with Akita's caring communities, are all parts of AIU's quality-enhancing learning commons. Please make full use of these opportunities and become the leaders you deserve to be.

I do hope you enjoy a busy but happy and meaningful campus life. Indeed, as Thomas Osbert Mordaunt said in his timeless quote in 1750, "One crowded hour of glorious life, is worth an age without a name." Our campus is not just a physical geographic space. It is also an intellectual space, reaching out to the emerging AI-IOT-driven new cyberspace. This is an environment where you will forge lasting friendships, engage with our alumni when they return, interact with local communities in Akita and be inspired by the international study abroad programs we have designed for you. My colleagues and I pledge to be with you on every step of your leadership journey at AIU. Once again, congratulations, and thank you for your time.

April 8th, 2026